

3	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	16107004	核-細胞質間蛋白質輸送制御と細胞核ストレス応答	米田 悦啓 (大阪大学・大学院生命機能研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>ストレス応答に伴って細胞の核内に輸送される importin α の核内標的分子として、未知の Kinase を含む複数の因子を同定したことや、それに関連する核-細胞質間蛋白質輸送制御機構に関する一連の研究成果は高く評価できる。また今後、ストレス応答の問題にとどまらず、広くシグナル伝達、細胞周期の問題にも波及するような研究の発展も期待できる。ただ、FRET 法を用いた低分子量 GTPase Ran の細胞内局在変化、活性化状態をイメージングするという研究に遅れが見られる点が残された課題である。</p>				
4	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	16107005	局在 mRNA と誘導的細胞間相互作用によるホヤ胚発生の制御	西田 宏記 (大阪大学・大学院理学研究科・教授)	A+
<p>(意見等)</p> <p>ホヤの発生における母性因子と誘導の全貌を明らかにするという大きな目標を掲げた研究課題であり、PEM による不等卵割の制御機構と、不等卵割における動物-植物軸に関する従来の見解を改めさせる新発見など、研究成果の学術的な価値を高く評価する。未発表の成果も含まれるが、当初の研究目標を上回る更なる発展が期待できる状況が見てとれる。本研究課題は、ゲノム解析が終了したモデル生物の一つであるホヤを用いて、発生生物学の基本的問題に取り組むものであって、今後の成果のみならず、脊椎動物の発生との関連性においても波及効果が期待できる。</p>				